石川県立
Ishikawa Museum of Natural History
自然史資料館
ニュースレター
No.19
2022.10

ごあいさつ

みんなでつくり、未来につなぐ ～自然史資料館の役割

オープンミュージアム企画
「辰巳用水三段壁周辺
生きもの調査」

いしかわ自然学校
インストラクターの世界

７月16日に新県立図書館の開館記念式典が挙行され、私も参列しました。式後の内覧会で「新しい知の殿堂」の素晴らしさを実感し、館内に「自然史資料館コーナー」があることを誇らしく思いました（コーナー紹介は18号参照）。

いまもコロナ禍の第７波がつづき、油断できませんが、当館ではコロナ対策を十分講じたうえで来館者を歓迎し、普及講座、展示、ワークショップ、講演会などを実施しています。恒例の全館イベントとして、５月には「自然史資料館オープンミュージアム2022」(国際生物多様性の日と世界博物館の日に協賛)、７～８月には夏休みの自由研究のために「すごいじぃー！夏休みの自然史資料館」を実施しました。オープンミュージアムではワークショップ「石川県の生物多様性を未来につなぐ：活動事例報告とネットワークづくり」と「これからの自然史資料館：学芸員と収蔵庫」、７月にはシンポジウム『みんなで調べる生物多様性！「生きものマップ」づくり～市民科学とスマホＡＩアプリの活用～』(石川県立大学と共催) を開催しました。当館は連携拡大を目指し、石川県とその関連団体の行事である企画展「いしかわ自然学校インストラクターの世界」（７月28日～８月22日）と「いしかわの里山里海展」（８月20～21日、ブース出展、詳細は次頁）に参加しました。

私が驚いたことは、新県立図書館と里山里海展が子供連れで大盛況だったことです。図書館では、親子で楽しく、のびのびすごせる「こどもエリア」が人気です。「里山里海展」では、来館者のほとんどが親子でした。生きものタッチコーナー、クイズラリー、企業などによるミニ講座などがあり、子どもたちの夏休みの定番のようです。当館の普及講座でも保護者同伴の子どもたちが主なゲストです。博物館としての特色を活かし、当館だけが提供できるプログラムは何か？未来を担う子どもたちのために、みんなで考え、工夫してゆきたいです。

（館長　中村浩二）

活動

いしかわの里山里海展が３年ぶりに開催されました

８月20日・21日に開催された「いしかわの里山里海展2022」へブースを出展しました。このイベントは、石川県が産業展示館でいしかわ環境フェアと同時開催し、地球温暖化から生物多様性保全まで多岐にわたる環境問題を取り上げています。2020年と2021年はコロナ禍のために中止されましたが、今年は３年ぶりの開催です。2017年から出展してきた当館も、待ってましたとばかりに参加しました。出展ブースのテーマは「いしかわレッドデータブック、特にトキ・コウノトリについて」です。石川県の絶滅危惧種をリストアップしたレッドデータブック作成など、生物多様性に関して大きな役割を担う当館の活動をアピールする大事な機会です。

そんな目的はさておき、里山里海展はとてもワクワクするイベントです。環境や里山里海をキーワードとして集う様々な出展者の意気込みが会場にあふれています。来場した多くの子どもたちと交流することで、「自然史」のもつ力を未来に伝えていきたいという思いを改めて強くしました。

（副館長　中野真理子）

当館のブースには
ひっきりなしに見学者が訪れました。

のと海洋ふれあいセンターなどによる
「いしかわの生きもの展」ブース

2019年の前回よりは来場者が少ない様子でしたが、
生きもの好きの子どもたちがいっぱい集まっていました。

topic

樹液に集まる昆虫を採集しよう

夏、雑木林を歩いていると、樹液がしみ出している木（クヌギやコナラなど）を目にすることがあります。このような場所は、発酵（はっこう）した樹液を求めて様々な昆虫が集まってくることから、樹液酒場と呼ばれます。見つけるポイントは、①甘酸っぱい匂いがする場所、②チョウやハチなどが飛び回っている木、③遠目で見て樹皮が黒ずんでいる所（大量の樹液がしみ出していると黒ずんで見える）を探すことです。狙い通りに見つけることができれば、甲虫類（例：カブトムシ、カナブン、クワガタ各種）やチョウ類（例：オオムラサキ、コムラサキ、ルリタテハ）など、魅力的な昆虫に出会うことができます。スズメバチ類も常連なので、もし出会ってしまったら刺激しないよう注意しましょう。

特別企画「すごいじぃー！夏休みの自然史資料館」（７月９日～８月31日）では、夏のカブクワ大特集と題して、樹液に集まる昆虫の採集方法を解説しました。来年の夏、色んな昆虫に出会うことができる樹液酒場を、ぜひ探してみてください。

（学芸員　嶋田敬介）

樹液が出ている木のうろで見つかったヒラタクワガタ

樹液を吸いに来ていたオオムラサキ（メス）

topic

アートかサイエンスか ～ 注目を集める旧制四高物理実験機器

自然史資料館には、旧制第四高等学校（以下、四高）で物理や化学の実験に用いられた機器が700点あまり収蔵されており、一部は「物理たいけん教室」で常設展示されています。これらは当館の自然史資料（動物・植物・地学）とともに極めて貴重です。

四高機器は、四高（1887～1950年。金沢大学の前身校のひとつ）の物理実験で実際に使用されていました。近年、学術的重要性とともに、工芸品としての美しさとアート性が、ますます高く評価され、各地で特別展示されています。例えば、金沢大学資料館では特別展示「二十年目の邂逅」*（2013年）が開催されました。また、ＪＲ東京駅前ＪＰタワー内にあるインターメディアテク（IMT）**において「アートか、サイエンスか ～知られざる四高遺産から」***が開催され、展示総数103点のうち当館から83点を出展しました（2019年２月～５月）。大反響を受け、当館の四高機器14点を選び、IMT内に特別コーナー「四高学術史モバイルミュージアム」が設置されました（2019年９月～2022年３月）。現在、博物館明治村（愛知県犬山市）の開村50年記念「第四高等学校物理化学教室リニューアル」では、当館の四高機器の展示とワークショップ（実験器具による体験）を実施中です（2022年４月～2023年３月）。

四高機器のデジタル・アーカイブ化の進行も注目すべき動きです。四高機器が金沢大学資料館と当館に分蔵されている不便を克服するため、ウェブ上で統合し、将来のヴァーチャル・ミュージアム化を目指しています。当館は、四高機器という貴重資料を有しますが、館内での展示や関連講演会などは不十分です。今後、四高機器をもっと活用するとともに、当館のヴァーチャル・ミュージアム化に努めたいと思っています。

＊主催：金沢大学資料館、特別協力：石川県立自然史資料館
＊＊正式名：JPタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」、日本郵便株式会社と東京大学総合研究博物館が運営
＊＊＊主催：東京大学総合研究博物館、共催：金沢大学資料館･石川県立自然史資料館、協力：合同会社AMANE･（一社）学術資源リポジトリ協議会

（館長　中村浩二）

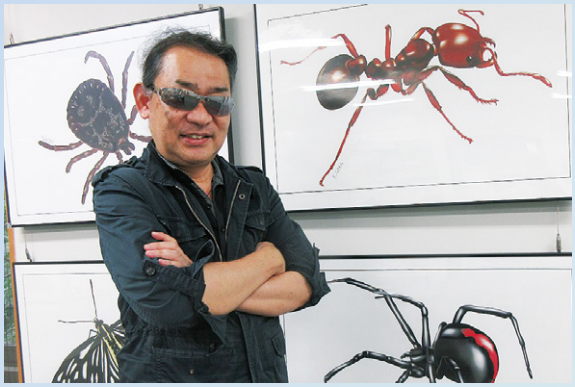
物理機器常設展示の一部（自然史資料館内）

特別展示「アートか、サイエンスか ～知られざる四高遺産から」会場（インターメディアテク内）

お知らせ

記念講演会

新型コロナは生きものたちからの警告 ～ 地球環境と私たちの生活



五箇公一氏　背景にある絵は氏の作品

石川県立図書館に自然史資料館コーナーが設置されたことを記念してこの秋、五箇公一先生（国立環境研究所）を講師に迎え、講演会を催します。会場は石川県立図書館だんだん広場です。

新型コロナウイルスの大流行が、人類による地球規模の環境破壊、気候変動、生物多様性の激減に起因していることと、私たちが目指すべきコロナ後の自然共生・持続可能な社会づくりについて学びます。

（学芸職員　髙内香）

イチ押し収蔵品

地学分野　金沢市産のヤシの化石

ヤシの木の化石

1952年に、金沢市を流れる犀川にかかる桜橋の下で、池田幸太郎氏によって石になった木の化石（珪化木）が発見・採集されました。その後、この標本はヤシ類の幹の化石であることがわかりました。この化石は池田家で保管されていましたが、2014年に発見者のお孫さんである池田成夫氏によって当館に寄贈されました。

犀川の上・中流域に分布する医王山層（1800～1600万年前に形成された地層）からは、珪化木と呼ばれる二酸化珪素（鉱物的には石英）に置き換わった木の化石が数多く産出します。ヤシ類の珪化木も数点だけ発見されており、そのひとつが今回紹介する化石です。ヤシ類の珪化木は珍しく、我が国の同時代の地層からは、数点だけしか発見されていません。寄贈された標本は希少であることに加え、保存状態が良く、「かつて金沢市一帯は、ヤシが生える熱帯気候であった」ことを示す貴重な資料です。　（学芸員　桂嘉志浩）

団体係のきまぐれコラム

坊さんが屁をこいた with カモシカ

昼休みの散歩で、10年間で５回、カモシカに出会った。特別天然記念物は、人が近づいても悠然としている。だから、気づいたらそこに、きょとんと立っていた。でも警戒はしているようで、鼻面を真っ直ぐこちらに向け、まるでシシ神だ。写真写真。カメラはガラケー。もっと寄りたい。もぐもぐ何か食べている。貴方など気にしてませんよ感を出し、あらぬ方向を見つつ、じりじり距離を詰める。振り向いたらストップ。さすがに５mまで寄ると、のっそり歩き出した。もっと寄ると、次は小走りで。やがて悠々と笹藪に消えていった。10分の嬉しい出会い。ああ良かった。帰り道で、同じのとまた会った。一本道に立ち塞がっている。そこにいたら、帰れないよ。２分のにらめっこで、道を譲ってくれた。午後の勤務に間に合ったか、覚えていない。

（教育普及　石丸信一）

利用案内

開館時間 ／ ９：00～17：00（入館は16：30まで）
休 館 日 ／ 12月29日～１月３日
入 館 料 ／ 無　料
駐 車 場 ／ 完　備（大型バス駐車可）

交通案内

《バスをご利用の場合》
金沢駅東口バスターミナル

『12 湯涌温泉ゆき』または
『12 北陸大学薬学部ゆき』または
『12 北陸大学太陽が丘ゆき』
→【銚子口】下車→徒歩約10分

『95 北陸大学太陽が丘ゆき』または
『95 北陸大学薬学部ゆき』
→【北陸大学太陽が丘】下車
→徒歩約10分

石川県立自然史資料館

〒920-1147　石川県金沢市銚子町リ441
TEL：076-229-3450　FAX：076-229-3460　https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/